

JENESYS2022 日フィリピン災害からの復興交流の記録（オンライン招へい）

1. オンライン交流概要

【目的・概要】日本とフィリピンは、台風や地震といった自然災害が多く発生する共通点があることを背景に、将来の関係者間の協力ネットワークを構築することを目的に、本プログラムを実施しました。一行は、防災施設で日本の対策事例を学習し、母国フィリピンでの災害対策への活用を考えるヒントを得ました。また、日本の被災地を訪れ、災害後の支援のあり方や復興への取組み、風評被害対策等について学びました。

【参加者】防災・気候変動分野を専攻する大学生・大学院生、学術界・行政機関関係者 76 名

【訪問地】

事前学習：東京都

オンラインプログラム：宮城県、岩手県、京都府、兵庫県

【日程】

このプログラムは、一部他のプログラムと合同で実施しました。

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応
事前学習		
2022 年 8 月 23 日 東京都	（注）他のプログラムと合同実施 【オリエンテーション】【講義・質疑応答】 【意見交換】 ① オリエンテーション、JENESYS 概要 ② 日本理解講義 「Japan Today」 講師：木村 秀夫 氏 SIMA 国際経営研究所 所長 ③ 質疑応答 ④ 対外発信依頼、アンケート回答、閉会	豊富な写真や図を用いた講師の説明に多くの参加者は頷いたりメモを取ったりするなど大変熱心に聴講し、内容を十分理解していた様子でした。質疑応答では、多岐にわたる多くの質問が寄せられました。主な質問は以下の通りです。「日本の政府や社会は、日本の古い文化や歴史を現代に活かすための方策を講じているか」「日本では落としたお金は戻ってくるとのことだが、日本人はお金に対してどういう考えをもっているか」「日本の人口の減少と高齢化に対して、日本政府は何か対策を行っているか」等。
訪日前迄 の個別学 習	【動画視聴】 ① 外務省挨拶 ② 事前オリエンテーション ③ ホームビジット体験	プログラムへの理解を深めるため、参加者は、日本やプログラムに関する動画を視聴しました。

	④ 南三陸町からのメッセージ ⑤ 日本文化理解（京都） ⑥ 日本語学習 ⑦ 8月23日 日本理解講義「Japan Today」	
オンラインプログラム		
1日目 2023年 2月1日 東京都 北海道	【オリエンテーション】 （注）他のプログラムと合同実施 ① 開会 ② オリエンテーション パート1 プログラム概要・目的説明 ③ オリエンテーション パート2 日程、プログラム詳細説明 ④ グループ別参加者交流 ⑤ 閉会	参加者は、オリエンテーションの内容をしっかりと聞いていました。③では、最終日の報告会に関する具体的な質問もあり、プログラムの趣旨を理解した上で、積極的に参加する姿勢が見られました。
2日目 2023年 2月2日 宮城県	【テーマ関連講義】【テーマ関連講義・質疑応答・意見交換】 ① 開会 ② 講義「日本における自然災害と消防の役割」 講師：JICE 総務部 特任部長 長沢亨氏 ③ 開会 ④ 講義「減災研究と社会への貢献」 講師：東北大学災害科学国際研究所 准教授 エリック マス氏 ⑤ 質疑応答・意見交換 ⑥ 閉会	講義：「日本における自然災害と消防の役割」 参加者はとても熱心に聞いていました。参加者から、日本ではどのライフラインが優先して復旧されるのか、災害後の募金活動、災害後の人々の防災や減災に対する心構えの変化についての質問などが寄せられました。フィリピンでも災害が多く発生するという状況を踏まえて、日本の災害に対する構えや、被災地への支援方法など日本の備えを学びたいという積極的な姿勢で臨んでいた様子でした。 講義：「減災研究と社会への貢献」講義終了後に数多くの質問が寄せられたことから関心の高さが伺えました。質問の中には、講師が勤務している東北大学災害科学国際研究所の活動のための資金調達方法や、フィリピンでの防災活動において直面している住民の移住問題に対するアドバイス、海面上昇や衛星画像のオープンソースデータベースに関するものなどがありました。多くの参加者が手を挙げたり、チ

		ヤットに書き込んだり、と積極的に参加していました。
3 日目 2023 年 2 月 3 日 岩手県	【テーマ関連視察・講義・質疑応答】 ① 開会 ② 視察 東日本大震災津波伝承館（陸前高田市） ③ 質疑応答 ④ 講義 「陸前高田市の紹介」 講師：一般社団法人マルゴト陸前高田 古谷 恵一氏	参加者から、フィリピンでも自然災害を経験しているので、東日本大震災の説明には同情と共感を覚えるという意見がありました。視察では、具体的に壊れた橋を再建する期間や国際的な人道支援団体について質問が寄せられました。講義に対しては、市を災害から復興するにあたり最も難しかったこととその克服方法や、陸前高田ではなぜマングローブではなく松を植樹するのか、などの質問が寄せられました。参加者の関心の高さが窺えました。
4 日目 2023 年 2 月 4 日 京都府	【日本文化体験】 （注）他のプログラムと合同実施 茶道体験 ① 開会 ② 講義・実演 「茶道 お茶と和菓子の作法について」 講師：一般社団法人 茶道裏千家淡交会 京都北支部 副幹事長 鈴木 宗博氏 ③ 質疑応答 ④ 閉会	茶道は、日本固有の形で発達完成した、外国人からも非常に関心が高い日本文化であり、参加者も興味関心が高かった様子でした。初心者におすすめのお茶や薬用のお茶はあるか、若者はどのくらいの頻度で茶道をするのか、などたくさんの質問が寄せられました。参加者は、実際に日本で茶道を体験したかったようでした。
5 日目 2023 年 2 月 5 日 兵庫県	【テーマ関連講義・交流】 ① 開会 ② 講義 「災害からの復興」 講師：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 客員教授 諏訪 清二氏 ③ 交流（グループ別） 兵庫県立舞子高等学校環境防災科生徒及び卒業生 テーマ「災害に強い街づくり」 ④ 総括	講義を、真剣にしっかりと聴講していました。 グループ別の交流では、参加者から講義を踏まえて、日本とフィリピンにおける防災教育の違いについて説明がありました。テーマに関して、参加者や交流校生徒それぞれの視点から大事だと思うこと（避難訓練、地域とのつながり等）が挙がり、若い世代としてこれから取り組むべきことについて、話し合いをしました。
6 日目 2023 年	【ワークショップ】 （注）他のプログラムと合同実施	プログラムの目的に沿って、これまでの学びを振り返りながら、プレゼンテーション

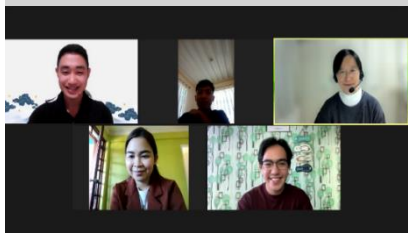
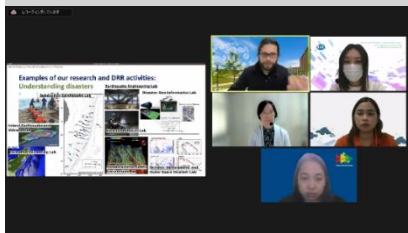
2月6日 北海道	報告会の発表準備 ① ワークショップの説明 ② アクション・プラン作成(グループ別) ③ 閉会	の資料作成を全員で一生懸命に取り組み、 時間内に仕上げました。
7日目 2023年 2月7日	【報告会】 (注)他のプログラムと合同実施 ① プレゼンテーション ② 講評 ③ 閉会	決められた時間内にグループの思いや意 見をしっかりと発表しました。発表者は、 皆、自信を持って、はっきりとした分かり やすい発表をしていました。

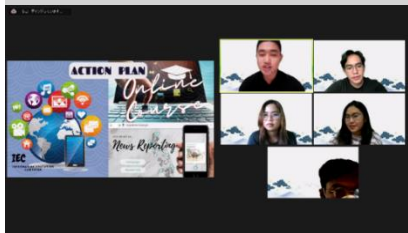
2. 記録写真

事前学習

	
8月23日【オリエンテーション】	8月23日【講義・質疑応答】「Japan Today」
	
8月23日【講義・質疑応答】 質疑応答の様子	8月23日 記念撮影

オンラインプログラム

	
2月1日【オリエンテーション】グループ別参 加者交流	2月2日【講義・質疑応答・意見交換】講義の 様子
	

2月3日【テーマ関連視察】館内ツアー	2月4日【日本文化体験】茶道実践の様子
	
2023年2月5日【テーマ関連講義・交流】交流の様子	2023年2月7日【報告会】プレゼンテーション

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

包括的で有益なディスカッションを提供していただきありがとうございます。昨年初めに日本語を学び始め、今は、日本の文化をもっと学びたいと思っています。日本とフィリピンの異なる文化にも興味があります。私が最も印象に残っているのは、両国間の信頼と相互理解を強化・構築し、文化の違いと情報を共有して日本への世界的な関心を生み出すという JENESYS の目的です。

◆ 社会人

日本がユニークで、世界で最も優れた国の一つである理由を理解する素晴らしい機会を与えてくださり心から感謝しています。私がテレビ、本、雑誌、ソーシャル メディアで見て得た知識がすべて、木村先生との議論によって正しいことがわかりました。このプログラムを受講して、私は日本を訪れることがより楽しみになり、胸が高まっています。ありがとうございました。

◆ 社会人

災害への備えと復興について、フィリピンと日本の違いや共通点を知ることができたのは、交流の一番の収穫です。発展途上国に住む私たちは、災害リスク防止について人々を教育するという点で、多くの改善が必要であることを学びました。しかし、フィリピン政府の災害リスク軽減管理計画は賞賛に値します。また、茶道体験も素晴らしかったです。茶道に触れることで、日本の歴史と伝統を知ることができました。

◆ 高校生

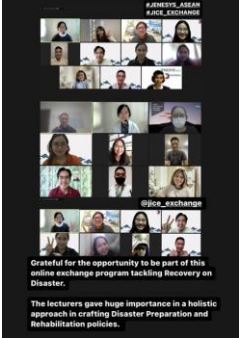
ファシリテーターとオーガナイザーは、オンライン交流の限界を考慮し、参加者が可能な限り高いレベルで活動に参加できるように配慮してくださいました。彼らは、参加者の質問や問い合わせにとってもよく対応してくれました。講師はそれぞれの分野に精通しており、テーマについて分かりやすく説明してくれました。オンラインによる東日本大震災津波伝承館の視察は実体験に近く、実際に日本にいるような感覚になりました。対面での実施の機会があればより多くのことが学べると感じました。

◆ 社会人

このプログラムを通じて、日本の災害復興に関する実践や技術、コミュニティ意識などを、自宅にいながら（オンラインで）学ぶことができ、しかも日常生活への支障も少なかったです。また、オンラインでの視察や交流を通して、私はストレスを解消し、多忙な日常生活から解放さ

れ、有意義な時間を過ごすことができました。しかし、オンラインでの視察や交流は、自宅で学ぶ素晴らしい方法ですが、実際にその場にいたり、顔を合わせたりすると、やはり多くの違った経験ができると思います。

4. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2022 年 8 月 23 日（Facebook） ブルネイとフィリピンのための JENESYS オンライン・プログラムの参加者の一人になれてとても嬉しいです！ 木村先生から日本の科学と工業生産における日本の技術的進歩について楽しく学びました。 いつかきっと私も日本の素晴らしさを体験できると思っています。	2023 年 2 月 2 日（Facebook） 対日理解促進交流プログラム 2022 年オンライン交流プログラム第 41 陣：災害からの復興（2023 年 2 月 1 日～7 日）への参加は、災害リスク軽減の重要性について私の認識を深める素晴らしい学習機会です。日本はこれまで何度も自然災害に見舞われ、その結果、緊急時の対応やインフラの強化がされてきました。フィリピンは物理的に大災害に見舞われやすい国です。
	2023 年 2 月 6 日 災害からの復興に取り組むこのオンラインプログラムに参加する機会を与えていただき、感謝しています。講師の方々は、災害への備えと復興政策を作る上で、全体的なアプローチを非常に重要視していました。

5. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

フィリピン・オンライン交流（災害からの復興）①



■ インフォグラフィック資料のシリーズとして発表する

日本の防災計画について、特に以下の項目を扱った一連のインフォグラフィック資料を作成することを計画しています。

- 気候変動が災害に与える影響
- フィリピンの災害リスクに関するニュースや情報の統合サイト
- 災害時にすべきこと、してはいけないこと
- オンラインまたはオフラインで発信できる緊急時の地域の統合ホットライン

フィリピン・オンライン交流（災害からの復興）②



■ 実施計画：災害リスク軽減と管理のための持続可能な教育

■ 実施方法：

- より多くの学術的な情報やニュース報道を収集する
- 地域で情報教育キャンペーン（IEC）を行う
- アプリケーションを使用したオンラインコースを実施する

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）